

患者サポートセンターだより

令和7年10月号

診療科	10月1日赴任	9月30日退職
外科	荒川 拓也 (あらかわ たくや)	
泌尿器科	市原 敬一郎 (いちばら けいいちろう)	石川 琢丸
		武内 勲
糖尿病・内分泌内科	伊藤 菜々華 (いとう ななか)	

診療科のご紹介

整形外科

整形外科主任部長 樋田 大輔

当院における前十字靭帯損傷に対する手術治療について

当院では前十字靭帯損傷に対する手術治療を（件数は多くはありませんが）行っていますので、ガイドラインをふまえて当院の基本的な考え方と方針についてご説明します。

前十字靭帯は膝の前方不安定性（大腿の骨に対して脛の骨が前にずれること）や回旋不安定性（大腿の骨に対して脛の骨が内側に捻るようにずれること）を抑える働きをしています。前十字靭帯損傷は男性よりも女性に多く、ジャンプの着地時や急停止時等に受傷します。受傷時の症状は腫れや痛み、膝の可動域の制限等です。診断は身体所見と画像検査で行われます。前十字靭帯損傷を放置すると関節軟骨の損傷や半月板損傷の頻度が高まります。前十字靭帯損傷に対する保存治療には一定の効果はあると言われていますが、半月板損傷の予防には限界があり、活動性が高い場合には一般的に手術治療が行われています。手術は受傷時の膝の可動域制限が改善してから行います。手術は損傷した靭帯の再建（作り直し）となります。大腿骨と脛骨に孔をあけて、その間にハムストリングス（膝を曲げる腱）と人工靭帯を組み合わせたものを移植して再建します。採取したハムストリングスには血流がなく、半年程度は劣化して弱くなると言われていますので、この期間は慎重にリハビリをしていただく必要があります。

手術前後は硬性装具を使用していただいています。ただし、装具のみでは再建した靭帯の再断裂は予防できないと言われていて注意が必要です。再建した靭帯の状態や筋力等にもよりますが、競技への復帰は10か月間程度を目安としています。



【移植するハムストリングスによるグラフト】